

話題のCDを4人の執筆者がそれぞれ聴いて、忌憚のない  
ご意見を述べていただきます。★は五つ星が満点。

CD

CROSS  
Review

**私**は『東雲の詩』初演を聴いた。彼は確か  
当時、龍笛や尺八の、息に乗せた旋律に  
強く惹かれていた。以来約10年、日本への想い  
を胸に作曲を続けていることが嬉しい。現在、  
海外で日本の伝統文化への学問的関心は一  
時期ほど強くない、と聞くことがあるが、彼は勉  
強を続け、無理なく日本を表現する曲を生んだ。  
が、たとえ洋画のサントラと紹介されても不思議  
に違和感がない。和も洋も本質的には同じなの  
か。無理に和をキワモノ化して商品にする日本  
人が滑稽に思えて来る。★★★★(太田暁子)



### 森が囁いて...

7月発売/ナポレオンレコード  
CD/NV5831/1760円

※Amazonにて購入可能

●東雲の詩/細雪を想い.../

In Remembrance.../fastpass!/森が囁  
いて...(以上マーティン・リーガン)

■坂田誠山(尺)/木村玲子(20)/野澤  
徹也(三)/野澤佐保子(箏)/三木希生子  
(Vn)/久我麻子(Vc)/古瀬安子(Pf)/  
藤舎花帆(小鼓)

**知**らずに1曲目の『東雲の詩』を聴けば、作  
曲者がアメリカ人とはだれも思わないだ  
ろう。1本の線が奏者の息遣いのままに横へ横  
へと伸びていく音楽はまぎれもなく和のもので  
ある。2曲目以降に現れるシンコペーションやミ  
ニマル的高揚、対位法的構成、洋楽器も加え  
ての西洋和声は作曲者のIDを明らかにするが、  
邦楽器本来の美しさも損なわない。尺八のよう  
に呼吸するチェロの旋律が美しい。奏者がアメ  
リカ人ならどうなるかも聞いてみたい。

★★★★(田中美登里)

**外**国人による邦楽演奏はもはや珍しくな  
い。しかし邦楽器の作曲となるとどうして  
も違和感が生れる例もあった。ところがこのア  
ルバムを聴いている際に、作曲者のことは正直  
忘れて、ひたすら音に浸ることができる。無論、  
表面的な日本らしさなどとも違う。ピアノ、弦楽  
合奏に尺八が絡んだり、尺八とチェロ二重奏に  
も文化の衝突を感じられないところにこの作曲  
家の真価を感じた。日本音楽は日本人だけのも  
のでないことの実証。★★★★(森重行敏)

**細**雪を...」の第一楽章で、日本の「うた」と  
アメリカの"Song"が交錯する瞬間を感じ  
た。日本の伝統音楽に魅せられて作品を作り続  
けるマーティン・リーガンの作品集では、そんな  
体験を何度もすることになる。伝統音楽を採り  
入れた日本の作家でも同様のことが起こるはず  
なのだけど、マーティン作品は全く違うし、そこ  
がまたたまらなく面白い。わくわくして聴くと同  
時にこうした作家と作品を知らなかった不勉強  
を恥じた。★★★★(渡部晋也)